

B—21 名古屋市およびその周辺における衣生活  
の実態調査  
寝衣および寝具について

名古屋市立女子短大 ○辻村 美津  
佐野 侑子

1. 私達はさきに、名古屋市およびその周辺における衣生活の実態調査を行ない、日常着および外出着における和洋服の利用状況、被服の所持数、被服調製の状況について報告した。本報は更に寝衣および寝具について調査・考察を行なったものである。

2. 調査の時期は昭和38年2月、調査対象は前回と同様本学被服科学生142名と、その家族828名で、調査用紙を配布し回答を求めた。調査の内容は、寝衣および寝具における和洋形式の利用状況、調製の状況、寝衣と寝室・寝具の形式との関連について調査・考察したものである。

3. 寝衣の和洋形式の利用状況は、性別・年齢別で異なり、高校生以下および女子の若年層では洋服形式の者が多く、中年・老年層では和服形式が極めて多い。男子ではいずれの場合も和服形式のものが圧倒的に多い。仕立については、寝衣では和服形式のものは7割以上が家庭製作で、洋服形式のものは8割近くが既製品である。寝具類では5割近くが家庭製作である。寝衣と、寝室・寝具の形式との関連は認められない。